

期待できない治水効果！

利根川の治水計画は1947年のカスリーン台風の大洪水被害をもとに、200年に一度の洪水に備えて作られました。しかしこの洪水は、戦後の赤木山麓が食料難解消のための開墾や、エネルギー源のための木材供出などで乱伐され森林が消えたことによって山が保水力を失い、水が一気に川に流れたことで起きた洪水です。今は当時と違い森林も成長し、あのように大きな洪水は出なくなっています。

さらにこの利根川治水計画は、ハッ場ダム以外に新たに十数基のダムを作らなければ完結しませんが、現在その計画はありません。

洪水の規模も50年以上1万 m^3/s すら超えたことがないにもかかわらず、この計画では2万2000 m^3/s を想定して計画し、その計画の中身も上記のようなものなのです。

そもそも水がめとしての機能を発揮するにはダムはいつでも満杯にしなければなりません。しかし、洪水対策ならダムは空っぽにしなければいけません。当たり前の話ですが、本来水を貯めているダムに洪水対策はあまり期待できないのです。ハッ場ダムの洪水調製力もあまりに小さく、効果は期待できません。

このような治水計画は根本から見直す時期に来ているのではないのでしょうか。

ダムを解体する公共事業！

世界中には約36,000のダムがあると言われています。1番多い国が中国で2番目が米国、そして3番目が日本です。日本には世界中のダムの約1割にあたる3,500のダム（建設中のダムを含む）があります。国の面積比からいくと日本は世界一のダム大国なのです。

しかし、そのダム事業に大きな転換期が訪れています。20年ほど前から欧米ではダムを作るのではなく、解体する公共事業を始めました。米国政府は10年以上前に「今後一切ダム建設を行わない」と宣言しました。なぜなら、ダムは、私たちが期待するほど効果がないからです。ダムは建設費と維持費に膨大なお金がかかり、環境負荷（下流域や海の汚染、魚介類への影響）が高いのです。ダムのかわりに森林の育成や、水を再利用する中水道インフラを整備したり、各家庭でも雨水を貯めて利用したりと、財政負担の大きいダム事業ではなく、財政負担が少なく、経済波及効果の高いダム事業にかわる公共事業のあり方を模索しています。ところが日本はどうでしょう。ほとんどの河川でダムが建設され、魚が上流まで上がれなくなっています。そして、今後380カ所以上ものダム建設を計画しています。日本も欧米のようにダムを解体する公共事業に一日も早く政策転換すべきです。

♡♡♡♡♡ 掲示板 ♡♡♡♡♡

☆ 市議会を傍聴に行こう！ ☆

- ☆ 前回の12号では市議会の様子について書きましたが「百聞は一見に如かず」、是非ご自身の目で確かめて下さい。
- ☆ 予約等の手続きはいりません。7Fの傍聴受付で住所・名前を書くだけです。入退室自由
- ・ 一般質問は6月9日～15日の予定(変更の場合有) 傍聴席:市役所7F 時間:10時～17時
- ・ 各議員の質問内容や日程等の問い合わせは議会事務局へ(川越市役所 代表 224-8811)

☆ 埼玉市民オンブズマン・ネットワーク公開定例会 ☆

日時 17年6月4日(土) 13:30～16:30(予定)

場所 川越福祉センター2F第1会議室(南公民館隣、旧埼玉県福祉センター)

TEL 049-244-2271 川越駅西口から徒歩5分(駐車場あり)

埼玉市民オンブズマン・ネットワーク本年度最初の定例会を川越で行うことになりました。公開定例会ですので、積極的なご参加をお待ちしています。(問い合わせ先 川口けいすけ)

ご意見・ご感想をこちらまで
お気軽にお寄せ下さい。



発行人 川口 けいすけ
川越市古谷本郷 1492-5 J2-201
TEL 080-3025-5776
FAX 049-235-5859
E-mail: umetarou10@msn.com
グリーンズ川越 第13号 2005.5.27 発行